

ト思考ス而シテA式ニ関シテハ条約未ダ実施前ニアリ規約第二十二條第八項トノ關係上C、B兩式ト其境遇ヲ異ニスルモノアリ理事會ニ於テモ既報ノ如ク之カ審議ヲ後廻シトシタル行掛アルノミナラズ總會側干涉ノ氣勢モ此分ニ関シテハ殊ニ甚シキモノアリ又B式ニ関シテハ纔ニ諸案ヲ理事會ニ提出ヲ見タルノミニシテ未ダ理事會ノ審議ヲ經ザル一方伊國側ヨリ之等諸案ノ作成ニ当リ伊國ハ毫モ相談ヲ受ケタルコトナシトテ種々注文アル模様ナルニ付右等ノ事情ニ

応ズル為A、B兩式ニ関シテハ其形式上多少ノ曲折ヲ見ザルヲ保セズト雖モ今日迄ノ所右兩者トC式ノ形式ト同シ経路ニ在ルノミナラズ前記委任條項一般ニ関スル理事會ノ總會ニ対スル態度ニ顧ミ恐ラク此兩者モC式ト同一ノ形式ニ了ルコトト思考セラル尚C式五條項及B式條項案ハ直ニ郵送スヘシ

英米へ転電仏独伊ニ郵送セリ

事項八 聯合國軍事會議及対独平和条約ノ軍事条項実施ニ関スル件

六二四 一月三日 在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

講和會議終了後ノ軍事會議へノ日本代表者參

加問題ニ関シカーゾン卿ト会谈ノ件

附記 大正八年十二月十三日ノ五國會議ニ於テ英國首

相提出ノ措置案

第三号 (一月六日接受)

本使在仏大使宛電報第三号

貴電第一一二三号ニ関シ十二月三十日「カーゾン」卿ト会见ノ序ヲ以テ決議第四項^(註)ニ話及シ本使ハ從來帝國代表者ガ聯合軍事會議ニ參加シ居ルコトト信シ同項ニ協賛ヲ与ヘタル次第ナル処其ノ後巴里ヨリノ報道ニ依レバ之迄實際參加シ居ラザル趣ノ処帝國代表者ノ參加ハ會議ノ性質上元ヨリ当然ノ儀ニシテ向後我レヨリ參加ヲ要求スル場合ニ當リ本使協賛ノ故ヲ以テ故障ヲ生ズルガ如キ事万々之ナカル可キヲ確信スルモ為念本使ノ立場ヲ明ニスルト同時ニ閣下ノ了解ヲ確メ置キ度キ旨申述ベタルニ同卿ハ之ニ對シ軍事會議ノ組織ハ充分承知シ居ラザルモ日本代表者參加ノ当然ナル

八 聯合國軍事會議及対独平和条約ノ軍事条項實施ニ関スル件

ハ貴說ノ通りニシテ第四項ノ決議ヲ楯トシテ故障ヲ生ズルガ如キコトハ万々之無カル可シト答ヘラレタリ為念電報ス

註 決議第四項ニ就イテハ左掲附記文書中ノ4及次掲六二五文

書ノ附記ニ參看

(附記)

大正八年十二月十三日ノ五國會議ニ於テ講和會議ノ将来ニ関シ

英國首相提出ノ措置案

It was agreed that:—

1. The present session of the Peace Conference shall come to an end at Christmas or at latest within a fortnight of the first procès-verbal of the deposit of ratifications of the treaty of peace with Germany.
2. After the termination of the present session of the Peace Conference, large questions of policy shall be dealt with by direct communication between the Governments themselves, while questions of detail shall be dealt with by Ambassadors in Paris.
3. The principles of the treaty of peace with Turkey shall

be first discussed between the heads of Governments before the conference meets to consider the necessary treaties.

4. An Inter-Allied Military Organization shall be set up under the presidency of Marshal Foch at Versailles with the following objects.

(a) To give advice to the Allied and Associated Powers in military questions relating to the execution by Germany of the treaty of peace.

(b) To execute such orders as the Allied and Associated Powers may give them.



六二五 一月五日 在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

講和會議終了後ノ軍事會議ヘノ日本代表者參

加ヲ五国会議ニ提議シ可然哉請訓ノ件

附記一 大正八年十二月三十日在英大使宛内田外務大

臣宛電報第五六九号

二 大正八年十二月三十日在英大使宛内田外務大

臣宛電報第五七〇号

大正八年十二月三十日在英國珍田大使宛内田外務大臣宛電報第
五六九号

最高軍事會議組織變更ノ場合日本代表者ヲモ参加セシムル諒解
アリシヤ在仏大使ヨリ在英大使ニ問合ノ件

第五六九号

(一月三日接受)

在仏大使宛本官宛電報(第一四八一号脱?)

「ヴェルサイユ」最高軍事會議組織變更ノ場合帝國軍事代表
表者ヲ参加セシムベキヤニ付当方ニ於テ請訓ノ次第ハ貴大
使館宛電報第一〇一六号(本省宛講第二五二二号)ニテ御
承知ノ処閣下ニ於テモ御承知ノ通り従来帝國ハ最高軍事會

議ニハ代表者ヲ任命シ居ラザル儀ナルガ貴電第一〇五八号

(大臣宛貴電第五四一号ノ三)講和會議ノ将来ニ関スル決

議中最高軍事會議ニ関スル件(貴電第一〇五九号第四項)ハ

閣下並御同僚ニ於テ帝國軍事代表者ヲモ参加セシムル御諒

解ナリシヤ御電報請フ

註一 珍田大使宛外務大臣宛電報第五四一号ノ三ノ引用ハ日本外

交文書大正八年第一册四五一文書(四七三頁乃至四七七

頁)中ノ四七六頁上段末項「右露國問題議了後」ヨリ「従

テ本協定案ハ日英仏三國政府ノ同意ヲ得タル旨ヲ記録ニ載

セタリ」迄ヲ指ス

2 珍田大使宛在仏大使宛電報第一〇五九号ハ珍田大使宛在仏
八 聯合國軍事會議及對德和平和條約ノ軍事事項實施ニ関スル件

第一八号

(二月六日接受)

往電報第二五二二号ニ関シ

(註一)

(註二)

客年在英大使宛本使宛電報第一一一七号(在英大使ヨリ轉

電濟ノ管)竝ニ在英大使宛本使宛第三号(在英大使ヨリ轉

電ノ管)ノ諒解ニ鑑ミ本邦ヨリモ該軍事會議ニ代表者ヲ參

加セシメ然ルベシト思考セラルル処倫敦ニ於ケル決議ニ依

ル本軍事會議ハ従来ノ「ヴェルサイユ」軍事會議ノ延長

ナルコト明白然モ「ヴェルサイユ」會議ニハ我代表者ヲ出

席セシメ居ラザリシ關係上此際帝國政府ニ於テ本邦代表者

ノ参加ヲ必要ト認メラルルニ於テハ本使ヨリ更メテ之ヲ五

国会議ニ提議シ其ノ承認ヲ求ムルノ順序ニ出デザルベカ

ラズト思考ス本件ニ付テハ陸軍側ヨリモ已ニ陸軍大臣宛

意見具申ニ及ビタル趣ナルト條約實施期モ遠カラザル今日

ナルヲ以テ至急陸軍トモ御協議ノ上何分ノ儀御回訓アリタ

註一 松井大使宛内田外務大臣宛電報第二五二二号ハ日本外交

文書大正八年第三册上卷四四九文書(五六九頁)

2 客年在英大使宛在仏大使宛電報第一一一七号ニ付テハ左掲

ノ附記ニ參看

(附記一)

大使宛電報第一〇五八号即チ珍田大使宛外務大臣宛電報第
五四一号ノ別電ト認メラルル而シテ右五四一号ノ三ニ引用

セラレタル別電第五四三三号ハ前掲六二四文書附記ノ英國首

相提出措置案(原案)ノ修正案ヲ報告シタルモノナリ右修

正案ニ付テハ左掲ノ附記ニ參看

(附記二)

大正八年十二月三十日在英國珍田大使宛内田外務大臣宛電報第

五七〇号

十二月十三日ノ五国会議ニ於テ最高軍事會議ニ日本代表者參加

問題ニ言及セザリシ件

第五七〇号

在英大使宛在仏大使宛電報第一一一七号

貴電第一四八一号ニ関シ

本省宛講第二五二二号ハ別電竝其内ニ引用セル講第二三〇

二号未着ナリシ為メ十三日會議前本使ニ於テ本電ヲ閲読セ

ズ從テ本件ニ関シ閣下ヨリ大臣経伺ノ事實ヲ承知セズシテ

出席シタリ然ルニ同會議ニテ配布サレタル原案中第四項ハ

An Inter-Allied Military Organization shall be set up

under the presidency of Marshal Foch at Versailles

with the following object.云々トアリタル処議事中右ニ

テハ新ニ會議ヲ組織スルコトト解セラルルノ虞アリトノ議

六二五

七七九

論アリタル結果冒頭ノ an の the ニ set up ヲ continued ニ又 with 以下ヲ and shall be instructed ニ書キ代フルコトトナリタリ右議事ノ経過ヨリ見レバ本案ハ從來ノ組織ヲ存続セシムルノ趣意ナルコト明瞭ニシテ訓令ニ点モ相当ト認メタルヲ以テ本使ニ於テモ同意ヲ表シタル次第ナリ右ノ事情ニテ我軍事代表者参加云々ニハ何等言及セズ右様御了承ヲ請フ尚前記未着電報二通ハ過日申進シタル通り至急御転報アリタシ

六二六 一月十三日 在仏國松井大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

一月十日ノ五国会議ニ於テ軍事會議存続ノ件

ヲ議定並軍事會議ニ日本参加ヲ承諾ノ件

第六六号

一月十日五国会議々事概要左ノ通り (出席者前日ノ通り)
一、軍事會議存続ノ件ニ関シ「ロイド、ジョージ」ヨリ英國政府ハ曩ニ倫敦ニ於テ議定シタル通りノ組織 (在英大使ヨリ本使宛第一一一七号) ニテ之ヲ「ヴェルサイユ」ニ置クコトニ異存無キ旨ヲ述ベ伊國モ之ニ贊同シタルガ本全權ハ往電第一八号ノ通り御訓令ヲ待チツツアルヲ以テ日本政

將又本件軍事會議ノ權限ハ英仏何レノ案ニ拠ルヤ未定ナル由ナルモ右會議ニ加入スル結果何レ軍事上又ハ財政上ノ負担ニ任ゼザルヲ得ザル場合アルヘク右ハ帝國ノ地理上其ノ他ノ關係上歐洲諸國ト異リ特種ノ考慮ヲ要スルヤニ思料セラルルニ付右ノ点ニ付貴見至急電報アリタシ

六二八 一月二十一日 在仏國松井大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

軍事會議列國代表ノ振合等ニ関シ回報ノ件

第一二四号

貴電第四二二号ニ関シ本件軍事會議ノ權限ハ往電講第二五一三号仏國案ニ基キ客年本使宛在英大使發電報第一一一七号決議第四項ノ通り修正セラレ往電講第六六号(一)ノ通り一月十日ノ五国会議ニ於テ決定セラレタルニ付右様御承知相成り度シ列國代表者ハ同會議ガ「ヴェルサイユ」軍事會議ノ異名同体タル關係上従前ノ通り英 Sackville-West 少將 仏 Westicker 少將及伊 Cavallero 少將 (米ハ留保中) ナリ然ルニ此等代表者ハ殆ド連絡將校トモ謂フベク從ツテ重大問題提議セラルル時ハ「フォッシユ」元帥及「ウィルソ」元帥等ノ出席ヲ俟チテ議定セラルル実情ニシテ而モ同

八 聯合國軍事會議及對和平和條約ノ軍事事項實施ニ関スル件 六二八 六二九

府ニ於テ軍事代表者ヲ任命スル場合ニハ其ノ参加ニ對シ各國ニ於テ異存無カルベキヲ期待スル旨ヲ述ベタルニ一同之ヲ承諾シタリ

二、次ニ「ロイド、ジョージ」ハ先般來「デニキン」軍不利ノ為「ボルセヴィキ」(脱)兵ト聯絡セントスル形勢トナリ「アルメニア」「ジョルジア」及「アゼルバイジャン」ハ極メテ危險ナル地位ニ陥リ救援ヲ求メ來リタル次第ナルガ軍事上如何ナル措置ヲ取り得ベキヤ軍事會議ノ意見ヲ徵スルコトト致シ度シト述ベ其ノ通りニ決シタリ(以下省略)

六二七 一月十六日 内田外務大臣ヨリ
在仏國松井大使宛 (電報)

軍事會議代表者任命ニ関シ列國ノ振合等查報

方訓令ノ件

第四二号

貴電講第二五一二二号ニ関シ
帝國政府ニ於テハ軍事會議カ組織變更ノ上引続存置セラルルニ於テハ帝國ヨリモ軍事代表者ヲ参加セシムルヲ必要ト認メラルル処同會議軍事代表者任命ニ関スル列國ノ振合承知シ度ニ付判明次第電報アリタシ

會議ハ現在ノ五国会議又將來ノ大使會議ニ隸屬スベキモノナルヲ以テ該軍事會議ノ決議ニ依リ帝國ガ直チニ軍事上又ハ財政上ノ負担ニ任ゼザル可カラザルガ如キコト無ク御來示ノ如ク帝國ノ特殊地位ニ基キテ考量ヲ要スル事項ニ就キテハ該軍事會議ニ於テ將又五国会議ニ於テ之ヲ留保シ以テ政府ノ考量ヲ仰グノ余地充分ニ存ス

六二九 一月二十三日 栃内海軍次官ヨリ
壇原外務次官宛

独逸艦艇処分ニ関シ大角武官宛訓令通報ノ件

附屬書 一月十九日栃内海軍次官發大角駐仏武官宛電報

大正九年一月二十三日

海軍次官 栃内曾次郎(印)

外務次官 壇原正直殿

独逸艦艇処分ニ関スル件

本件ニ関シ別記ノ通り大角駐仏武官宛電訓候條御了知相成度
右依命通牒ス

(附屬書)

一月十九日 枋内海軍次官兼大角駐仏武官宛電報官房機密第七番
独逸艦艇処分ニ関スル訓令

官房機密第七番電報

左ノ通り飯田少将ニモ伝ヘヨ依命

一、宣伝用水上艦ニ関シテハ爾來回航費其他ニ就キ研究中ノ処今般之ヲ本邦ニ回航セズ棄權スルコトニ決セラレタリ

右ハ貴官ノ適當ト認ムル時機ニ於テ其旨言明セラレ差支ナシ

二、破壊ノ為メ配當ノ水上艦処分ハ貴見ノ通英海軍ニ依頼シ之カ管理下ニ置クコトト致度

三、現ニ保有スル宣伝用潜水艦破壊後ノ材料ハ出来得レバ貴見ノ通前記宣伝用水上艦ノ棄權ノ代償トシテ之ヲ帝國ニ保有シ或ハ其売上金ヲ返送セザルコトト致度

四、前諸号ヲ我全權ニ伝ヘ此方針ヲ以テ可然措置アリ度以上駐米、伊、武官ニ転電シ置カレ度

六三〇 一月三十日

在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独逸艦艇ノ武装其他ノ機裝品引渡問題ニ付大

賠償トシテモ之ガ引渡ヲ要求セザルベカラズト主張シタリ然ルニ「ロード、ダービー」ハ賠償云々ハ全く別問題ナルガ故ニ之ガ為ニハ別ニ政府ノ訓令ヲ仰ガザル可カラズトテ論点ノ変更ヲ肯ゼズ本使ハ調停ヲ試ミ得ベキ新局面ナリト認メタルモ本問題ニ付テハ英國側ハ何故カ当初ヨリ頗ル強硬ナル態度ヲ持セルニ顧ミ將又敵船分配等海軍關係問題ニ付テハ英國側ハ絶エズ我方ニ好意ヲ示シ來レルニ鑑ミ今俄ニ調停脱ノ点ニ付テハ一致ヲ見タルモ其解除セシメタル武装ノ処分ニ就イテハ双方前述ノ論拠ヲ固持シテ繰返スニ過ギズ結局前掲監督委員ニ対スル回答トシテハ敵艦ハ武装解除ノ状態ニテ引渡サシム可ク已ニ陸揚セラレタル機裝品ニ付テハ窃盜其他ノ方法ニ依リテ喪失セシムルコトナカラシメン為監督委員ニ於テ適宜ノ措置ヲ執ル可キ旨ヲ電報スルコトトナレリ

四、敵水上及潜水艦ノ分配ニ関スル海軍會議ノ決議ヲ是認ス右決議ニ依リ帝國ノ現有セル潜水艦七隻ノ解体材料ハ英國政府ノ所得タル可キコトニ正式ニ承認セラレタリ
在欧米各大使ヘ転電セリ

註 松井大使兼内田外務大臣宛電報第一七二号ノ七ニ付テハ左掲

八 聯合國軍事會議及對和平和條約ノ軍事事項實施ニ関スル件

六三〇

七八三

使會議ニ於テ協議ノ件

附記

一月二十八日松井大使兼内田外務大臣宛電報
第一七二号
第一回大使會議議事概要

第一七六号

(二月一日接受)

大使會議第二(一月二十六日午後)

(一及二省略)

三、敵艦引渡ニ関シ在独海軍監督委員ヨリ敵艦ト共ニ武装其他ノ機裝品ヲモ引渡サシムベキヤ否ヤニ付最高會議ノ明確且決定的解決ヲ求ムル旨來電アリ右ハ條約第一八五条ノ解釈ニ関スルモノナルヲ以テ午前ニ續ク議事(往電第一七二号ノ七)ニ移リ「ロード、ダービー」ハ條文ヲ楯トシテ飽ク迄武装解除ヲ主張シ本使モ常識論トシテハ機裝品ヲモ引渡サシムルコト好都合ナルモ條文ノ解釈トシテハ到底(脱)サズ又独逸ニ之ヲ強制スルモ独逸拒絶センカ條文ニ依リ之ヲ強制スルノ根拠ナキニ非ズヤト述べタルニ「カンボン」「ベルトロー」「ル、ヴァヴァスール」提督及(不明)モ之ニ弁駁ヲ加ヘタル後抑海軍監督委員ノ他ノ報告ニ依レバ独逸ハ武器及機裝品迄ヲ取外シ破壊セズシテ店頭ニ陳列セル趣ナリ右ノ如ク独逸ニ於テ之ニ違背スル以上右機裝品ハ

ノ附記參看

(附記)

一月二十八日在仏国松井大使兼内田外務大臣宛電報第一七二号
一月二十六日午前ノ第一回大使會議議事概要

第一七二号

(一月三十日接受)

一月二十一日ノ五國會議決議ニ從ヒ本日ヨリ大使會議開催
仏「ミルラン」ハ「カンボン」「ベルトロー」ヲ補佐トシテ
議長席ヲ占メ英「ロード、ダービー」米「ワイルス」伊
「ボナン、ロンガール」竝ニ本使出席ス議事概要左ノ通り
(一乃至六省略)

七、敵艦引渡要求問題ニ付對独條約第一八五条及第一九二
条ノ解釈ニ関シ英國ハ戰艦ノミヲ(脱) 船具其他ノ備品ハ
之ヲ取り外ヅシ破壊セシム可キヲ主張シ仏國ハ備品等ヲモ
引渡サシム可キヲ主張シ伊國ハ仏ニ荷担シ我が大角大佐ハ
英國ノ見解ニ從ヒタル為メ海軍會議ニ於テ意見纏ラズ依テ
之ヲ本會議ニ提出シタリ

「ロード、ダービー」ハ本件急速解決ヲ見タキ旨ヲ述べ
「ミルラン」ハ仏國閣議及議會開會期日等ノ關係ニ鑑ミ毎
週二回(月曜及木曜)開會シ度キ積リナルヲ述べタルニ
「ロード、ダービー」ハ敵艦引渡ハ焦眉ノ問題ナルヲ以テ

本日ニモ之ヲ解決シ度キヲ主張シ依テ午後ヨリ再び会合スルコトニ決セリ
英、米、伊ニ転電セリ

六三一 三月一日 渡辺在仏国日本大使館附武官ヨリ
陸軍省宛(電報)

聯合陸軍會議ニ関スル仏伊英日白各国ノ編成

二付報告ノ件

陸講第一三二号 (三月四日外務省接受)

聯合陸軍會議ニ関スル仏国側ノ編成次ノ如シ「フォッジュ」元帥ハ聯合陸軍會議議長トシテ且ツ仏国陸軍代表者ヲ兼ネ之ニ「ウェーガン」中將副長タリ而シテ第一部第二部輸送班文書班郵便班ニ区分セラレ、第一部ハ西歐羅巴ニ関スル事項ヲ担任シ其ノ長ハ「デスチックケル」少將副長ハ中佐一ニシテ三課ニ区分セラル第一課ハ中佐一少佐一ニシテ人事ヲ担任シ第二課ハ少佐一大尉ニシテ監督業務ヲ担任シ第三課ハ少佐一大尉一ニシテ「ライン」占領軍国民投票地方占領軍ニ関スル事項ヲ担任ス、第二部ハ東歐羅巴亞弗利加極東ニ関スル諜報機關ニシテ長大佐一副長中佐一之ヲ統轄シ第一課ハ少佐一大尉一ニシテ波蘭露國極東ニ関スル事

項ヲ、第二課ハ「バルカン」及地中海沿岸諸國ニ関スル事項ヲ、輸送班ハ少佐二大尉一、文書班ハ大尉一中尉二、郵便班ニハ將校以下若干

以上ノ編成ヲ見ルニ主トシテ平和條約實施ニ関スル直接事項ハ第一部ニシテ第二部ハ曩ニ陸講第百十三ヲ以テ電報七一ノ一月十日五国会議ニ於テ決定セル聯合陸軍會議ノ権限乙ニ該当スル諜報機關ナリ

伊太利ハ之カ為メ特別ノ編成ヲ採ルコトナク代表者トシテ「カバルロー」少將之ニ當リ現ニ当地ニ在リテ任務ニ服シツツアル大佐一中佐一少佐三中尉一ヲ以テ凡テノ平和關係業務ヲ処理スルモノノ如シ

英國ノ編成ニ関シテハ伊太利ト同様ナルヘク講和陸軍委員長「サクビー」少將之ニ任ス

日本カ聯合陸軍會議ニ加入スル為メ日本陸軍代表者トシテ歐發第九十四ニ基キ小官之ニ當リ監督委員業務ニ関シ專任スヘキ將校一及條約編成ノ第一部ノ各課ト直接連繫ヲ保持シ情報蒐集ニ任スヘキ將校二ヲ以テ編成セントス而シテ之ニ引キ當ツヘキ人選ハ第一課並ニ第二課中「バルカン」地中海沿岸ニ関スル諜報業務ノ為メニハ洪谷少佐以下新ニ到着

スル人員ノ中ヨリ之ニ充テ波蘭、露西亞極東方面ニ関スル情報ノ為メニハ適當ノ者少キニ依リ武田少佐ヲシテ之ヲ兼任セシムルハ恰モ同少佐ハ本任務ニ関連シ頗ル便宜ナルヘシト思考セラレ出兵ニ就キ同少佐ヲシテ本任務ノ傍ラ該業務ニ従事セシムルコトト致シタリ御承認ヲ乞フ(以上全權承認スミ)

尚聯合陸軍會議ハ一月十日五国会議ノ決議以來引続キ開催シアルヲ以テ日本陸軍代表者トシテ小官同會議ニ出席スヘキ旨松井全權ヨリ公式ニ通牒ヲ差シ二月十九日「フォッシュ」元帥ヨリ承認ノ回答アリ

二月二十一日第四回會議ヨリ引キ続キ團部歩兵少佐ヲ隨ヘ同會議ニ出席シツツアリ又白耳義ハ條約ニ示ス五強國ニ在ラザルモ独航空監督業務並ニ占領地軍隊ニ関スル事項審議ノ場合ニ限り同國代表者ヲ參列セシムルコトトナリ「ジュウステンス」中將之ニ參列シツツアリ

六三二 七月十日 在英國珍田大使(スパイ出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

スパイ會議ニ於テ獨逸ノ軍備撤廢問題及戰爭責任者ノ獨逸側ニ依ル裁判ニ付審議ノ件

八 聯合國軍事會議及對獨平和條約ノ軍事事項實施ニ関スル件 六三二

別電 同日珍田大使宛内田外務大臣宛電報特別第一七号
軍事事項實施ニ関スルスパイ會議議定書

附記 右スパイ會議議定書公文

特別第一六号 (七月十二日接受)

「スパイ」最高會議第六(七月九日午前)

(一)軍備撤廢問題

議長ハ昨日協定ノ次第ニ從ヒ會議録「プロトコル」(別電

特別第一七号)ヲ作成シタルヲ以テ之ニ調印セザル可カラザル勉右ニ對スル獨逸側ノ回答如何ヲ尋ネタルニ「シモン(註2)ス」ハ會議録ハ只今入手シタルノミナル勉閱覽ノ上之ニ調印スベキヲ決シタリ但シ獨逸憲法ノ規定上爰ニ宣言ヲ為サザル可カラザル一点アリ則チ獨逸ノ利益トナルベキ点即チ軍備撤廢ノ期限延長ニ関スル限リ右「プロトコル」ニ調印可能ナルモ(脱)占領ヲ認ムル件ハ國ノ安危ニ関スル問題ナルヲ以テ議會ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ承認スル能ハズ

蓋シ條約中賠償編ニ於テ不履行ノ場合占領ヲ認ムル事項アルモ其ノ他何レノ條項中ニモ條約不履行ノ箇々ノ場合直チニ占領ヲ承認スベキ一般の規定無シ故ニ右會議録ハ今提示セラレタル形式ニテハ承認(脱)ナルヲ述ベタリ

議長茲ニ於テ停会ヲ宣シ聯合側代表ノミ別室ニ退キテ協議シタルガ「ロイド、ジョージ」ハ本日「ゲッスレル」^(註3)欠席セル処右ハ同人既ニ辭職シタル為ナリトノ噂モアリ独逸政府ノ有力ナル大臣辭職スルノ事態ニ立到レルニ拘ラズ同政府尚會議錄ニ調印セントノ意思ヲ表明シ居レルニ顯ミ聯合側ニ於テモ何等カ折合ヲ附ケザル可カラズト述べ居リタル折柄別ニ「シモンズ」ハ會議ノ書記官長ニ對シ自國領土ノ占領セラルルニ就キ政府自ラ予メ之ニ同意スルガ如キハ孰レノ政府ト雖為シ得ザル所ニシテ斯ノ如キヲ強ヒラルル時ハ独逸政府ハ結局辭職ノ外無キ旨語リタル趣ニテ書記官長ヨリ右談話ノ次第取次来レリ之ニ對シ「ロイド、ジョージ」ハ右ハ敢テ独逸政府ニ關係アル事柄ニ非ズ聯合側ニ於テ執ラントスル措置ヲ予メ先方ニ通知シ置クニ過ギズトノ解釈ヲ執ル時ハ此等ノ困難ヲ除キ得ベシト述べ「ミルラン」^(註4)ハ右會議錄末尾ニ独逸政府ハ上記決議ヲ了承シ同政府ノ関スル限り該決議ノ規定ヲ忠実ニ遵守スベキヲ約ストアル次第ヲ注意シタルガ「ロイド、ジョージ」ハ同約諾ハ其履行スベキ条件ノミニ關係シ之ヲ忠実ニ遵守スルト言フニアルノミ而シテ万一之ヲ履行セザリシ場合聯合側ノ執ルベキ措

置ニ就テハ敢テ独逸政府ノ承認ヲ得ル迄モ無ク唯之ヲ最初ヨリ通告シ居クニ過ギザルノミト答ヘ共ニ此趣旨ニ依リ独逸委員ニ説明スルコトトシタリ

會議再開ノ後「ロイド、ジョージ」ハ独逸側ニ於テ右會議錄ヲ承認シ以テ交渉断絶ノ不祥事ヲ見ルコト無カリシヲ喜ブ旨ヲ述べ「リュール」流域ノ占領ニ就テハ聯合國ハ本年二月十日ノ「プロトコル」中独逸其義務ヲ履行セザル時ハ聯合側ハ其履行ヲ迫ル為必要ナル軍事行動ヲ執ルベキヲ規定セルニ基キ本會議錄ノ規定遵奉セラレザル時聯合側ノ執ルベキ措置ヲ通知スルニ止マルモノナルガ故ニ之ガ為議會ノ同意ヲ必要トストノ独逸側ノ反對ハ理由無キモノナル旨ヲ述べタルニ「フエーレンバッハ」^(註5)ハ右「ロイド、ジョージ」ノ説明ニ依リ独逸側ハ右會議錄ニ調印スベキ旨ヲ答ヘタリ

(二) 戰爭責任者問題
本件ニ関シ議長ヨリ戰爭責任者名簿ハ既ニ独逸政府ニ交付セラレタルニ拘ラズ今日迄右責任者処罰ノ遅延セル動機如何ヲ尋ネタルニ独逸副宰相兼司法大臣「ハインツェ」ハ独逸側ニ於テハ戰責者名簿ヲ受領シタルヲ以テ(脱)犯罪後既ニ數年ヲ經過セルト犯人住所ヲ変更シ或ハ既ニ独逸ヲ去

リタル者モアリタルトニ依リ其ノ搜索ノ為非常ナル困難ヲ感ジタルニ拘ラズ既ニ八百六十六名ニ付「ライプツヒ」大審院ニ於テ審理ヲ開始シ居レリ但シ訴追理由不明ナルモノ多キ上ニ証憑モ充分ナラザル為事件今尚繫屬中、其後聯合國側關係各國ニ對シ審理材料ノ供給ヲ求メタルモ未ダ何等回答ニ接セザル旨ヲ述べタルニ「ロイド、ジョージ」議事ノ進捗上本件ハ先ヅ聯合側並独逸側各司法当局者ノ間ニ適當ノ審理手續ヲ協議セシメ其ノ結果ヲ本會議ニ報告セシムルコト然ル可キ旨ヲ提議シ今日迄証憑ノ充分ニ提供セラレザリシハ自分等甚ダ之ヲ遺憾トスル旨ヲ述べ「ライプツヒ」大審院ニ付テハ自分ハ充分ノ信用ヲ有シ(脱)材料整備スルニ於テハ右大審院ハ必ズ公正ナル裁判ヲ行フ可キヲ信ズル旨ヲ附言シタリ「シモンズ」ハ關係司法当局者ノ協議會ニ関スル提議ニ賛成スルト共ニ國際法違反ノ行為ヲ敢テシタル者ハ必ズ処罰ス可キヲ聲明シタリ

(三) 會議錄調印

軍備撤廃ニ関スル「プロトコル」調印準備成リタルヲ以テ午前ノ會議散会前英仏白伊ノ代表者及本使並独逸宰相及外務大臣ハ右「プロトコル」ニ署名シタリ尚本「プロトコ

ル」ハ會議錄ノ性質ヲ有スルモノナルニ鑑ミ書記官長モ之ニ署名シタリ

在欧米各大使ヘ転電セリ (十日午後六時)

註1 議長ハ白國首相ドラクロア

2 「シモンズ」ハ独逸外務大臣

3 「ゲッスレル」ハ独逸国防大臣

4 「ミルラン」ハ仏國首相兼外務大臣

5 「フエーレンバッハ」ハ独逸宰相

(別電)

七月十日在英國珍田大使(スパイ)出張中(発内田外務大臣宛電報特別第一七号)

ヴェルサイユ條約ノ陸海空各軍事事項實施ニ関スル一九二〇年七月九日ノスパイ會議決定書

特別第一七号別電 (七月十三日接受)

一九二〇年七月九日「スパイ」會議調書
白國內閣議長「ドラクロア」ヲ議長トシ「スパイ」ニ會合セル英仏白伊日及独逸ノ各國代表者ヨリ成ル會議ハ一九一九年六月二十八日調印セル條約ノ完全ナル施行ヲ容易ナラシムル為協同一致次ノ決定ヲナセリ

独逸政府ハ

(一) 直チニ地方警察隊及治安警察隊ノ武装解除ヲ行フコト

(一) 一般市民ノ手ニアル一切ノ武器ノ即時引渡ヲ要求シ且違反ノ場合ニハ有効ナル刑罰ニ処スベキ旨ノ命令ヲ發スルコト

法律上現ニ独逸政府ノ有スル権限ニシテ右命令ノ執行ヲ確保スルニ足ラザル時ハ同政府ニ之ガ為必要ナル一切ノ権限ヲ附与スル為立法上ノ手續ヲ取ルコト

(三) 徵兵制度ヲ廢シ條約所定ノ長期徵兵制度ノ基礎ニ於ケル軍隊ヲ組織スル為速ニ必要ナル措置ヲ取ルコト

(四) 條約ニ依リ認容セラレタル數量ヲ超過スル一切ノ武器及軍事材料ハ破壊ノ為聯合側ニ引渡シ且右破壊ニ助力スルコト

(五) 條約並一九二〇年一月十日ノ覺書記載ノ海軍並ニ航空條項ニシテ未ダ履行セラレザルモノ殊ニ左記諸項ノ履行ヲ保障スルコト

(イ) 更ニ延期スルコト無ク條約第一八五條ニ依リ交付セララルヘキ既定軍艦ノ引渡並該覺書ニ依リ交付セラルベキ材料ノ引渡ヲ結了スルコト

(ロ) 條約第二〇九條ノ履行ニ依リ聯合國海軍監督委員會要求ニ係ル一切ノ図面並書類ノ即時引渡

輸入ヲ防止スル為必要ナル一切ノ手段ヲ執ルコト

(四) 軍医並獸医ハ條約所定ノ將校四千人中ニ包含セラレズ但シ軍医ハ三百名獸医ハ二百名ヲ超ユルヲ得ズ

(五) 行政官吏ノ數ヲ七百三十五名トシ以テ軍隊ノ行政ヲ全然國防省ニ屬セシムルコト

(六) 小銃五万挺及彈藥二十万ハ内乱ノ場合ニ於ケル補充ノ為予備トシテ保留スルコトヲ得

(七) 聯合國軍事監督委員會ノ指定セル機關銃數僅少ノ増加ハ各部隊自衛上ノ所要ニ当テラルルコト

一九二一年一月一日以前何時ニテモ在独聯合國監督委員會於テ本協定ノ條項ヲ忠実ニ履行セラレザルヲ認ムル時之ヲ例ヘバ一九二〇年九月一日ニ至リ前規定ノ行政上並立法上ノ手續ヲ取ラズ又ハ最モ広ク其ノ公布ヲ為サズ或ハ材料ノ破壊並引渡ニシテ制規ノ通り遂行セラレザルカ或ハ一九二〇年十月一日ニ至リ独逸軍隊ガ最大限國防軍十個旅團十五万人ニ削減セラレザルニ於テハ聯合國ハ其ノ「ルール」地方タルト否トヲ問ハズ新ニ独逸領地方ノ占領ヲ行ヒ前記所定一切ノ條件完全ニ履行セラルル迄撤退セザル可シ

独逸代表者ハ独逸政府ガ前記決定ヲ了知シ右ニ関シ忠実ニ

(八) 独逸官憲ガ嚴正ニ條約第二〇五條及二〇六條ノ規定遵守ノ為必要ナル一切ノ手段ヲ講ズルコト

(九) 條約第一九二條ニ依リ交付スベキ一切ノ軍事材料ノ引渡ヲ取急ギ且其破壊ヲ容易ナラシムルコト

(一〇) 一九二〇年八月一日ヲ以テ航空材料(水上飛行機用倉庫並設備ヲ除ク)ノ引渡並破壊ヲ結了スルコト及同期日迄一九二〇年一月十日覺書規定ノ支払ヲ実行スルコト

(一) 聯合國航空監督委員會ニ依リ命ゼラルベキ水上飛行機用建築物倉庫並設備ノ引渡若クハ破壊ヲ一九二一年二月十五日迄ニ実行スルコト

ヲ條件トシ聯合國ハ次ノ條項ヲ承認ス

(一) 國防軍削減ノ期限ヲ一九二〇年十月一日迄延期ス同期日迄ニ於テ國防軍ハ最大限十個旅團十五万人ニ減セラル可ク更ニ一九二一年一月一日迄ノ延期ヲ以テ國防軍ハ嚴格ニ條約所定ノ編成及組織ニ依リ十万人ニ削減セラル可シ

(二) 独逸政府ハ武器ノ蒐集ニ助力スル為聯合國軍事監督委員會ヨリ同政府ニ通告ス可キ數ノ軍隊ヲ一九二〇年十月一日迄中立地帯内ニ保有スルコトヲ許容ス

(三) 占領地帯ヨリ独逸ノ他ノ地方ニ仕向ケラル可キ武器ノ密

其ノ規定ヲ遵守ス可キヲ約スルモノナルコトヲ宣言ス
在歐米各大使ハ電報セリ

(附 記)

ヴェルサイニ條約ノ陸海空各軍事條項實施ニ関スル一九二〇年七月九日ノスパー會議決定書公文

PROTOCOLE

DE LA CONFERENCE DE SPA

DU 9 JUILLET 1920

CONCERNANT

L'EXECUTION DES CLAUSES MILITAIRES,

NAVALE ET AERIENNES

DU TRAITE DE VERSAILLES.

La Conférence, composée des Représentants de l'Empire Britannique, de la France, de l'Italie, du Japon, de la Belgique et de l'Allemagne, réunis à Spa, sous la présidence de M. Delacroix, Président du Conseil des Ministres du Royaume de Belgique, a, d'un commun accord et en vue de faciliter la complète exécution du Traité de Paix, signé à Versailles, le 28 juin 1919,

décidé ce qui suit :

A condition que le Gouvernement allemand :

- 1° Procède immédiatement au désarmement des Eir-wohnerwehren et de la Sicherheitspolizei ;
- 2° Publie une proclamation exigeant la livraison immédiate de toutes les armes qui sont aux mains de la population civile et prévoyant, en cas de contrevention, des pénalités efficaces. Si les pouvoirs que le Gouvernement allemand tient actuellement de la loi sont insuffisants pour assurer l'exécution de cette proclamation, des mesures législatives devront être prises sans délai, à l'effet de conférer audit Gouvernement tous les pouvoirs nécessaires ;
- 3° Prendre immédiatement les mesures nécessaires pour abolir le service militaire obligatoire et pour organiser l'armée sur la base du service militaire à long terme, ainsi qu'il est prévu dans le Traité ;
- 4° Livre aux Alliés à fin de destruction et aide à la destruction de toutes les armes et du matériel militaire

qui sont en excédent sur les quantités autorisées par le Traité ;

- 5° Assure, comme il est dit ci-après, l'exécution des clauses navales et aériennes, insérées dans le Traité et dans le Protocole du 10 janvier 1920, et qui n'ont pas encore été exécutées, notamment : a) achever, sans nouveau délai, la livraison des bâtiments de guerre de surface, devant être livrés en vertu de l'article 185 du Traité, ainsi que la livraison du matériel devant être livré en vertu dudit Protocole ; b) livrer immédiatement, en exécution de l'article 209 du Traité, tous plans et documents requis par la Commission navale interalliée de Contrôle ; c) prendre toutes mesures nécessaires pour que les autorités allemandes satisfassent strictement aux dispositions des articles 205 et 206 du Traité ; d) hâter la livraison et faciliter la destruction de tout le matériel de guerre à livrer en vertu de l'article 192 du Traité ; e) terminer, pour le 31 août 1920, la livraison et la destruction du matériel aéronautique (excepté les hangars

et les installations pour l'hydrogène) et effectuer, pour la même date, les versements prévus par le Protocole du 10 janvier 1920 ; f) exécuter pour le 15 février 1921, les livraisons ou les destructions de bâtiments, hangars et installations pour l'hydrogène, qui seront prescrites par la Commission aéronautique interalliée de Contrôle.

Les Alliés consentent :

- 1° A prolonger jusqu'au 1^{er} octobre 1920 la période prévue pour la diminution des effectifs de la Reichswehr, date à laquelle l'armée devra être réduite au chiffre de 150,000 hommes comprenant au maximum 10 brigades de Reichswehr, et à prolonger, jusqu'au 1^{er} janvier 1921, la date à laquelle devra être achevée la réduction des effectifs à 100,000 hommes avec la composition et l'organisation exactes prévues par le Traité ;

- 2° A autoriser le Gouvernement allemand à continuer jusqu'au 1^{er} octobre 1920, dans la zone neutre, pour participer au rassemblement des armes, les effectifs dont le chiffre sera porté par la Commission militaire

interalliée de Contrôle à la connaissance dudit Gouvernement ;

- 3° A prendre toutes mesures nécessaires pour empêcher la contrebande des armes en provenance des territoires occupés et à destination des autres parties de l'Allemagne ;

- 4° Les médecins et vétérinaires militaires ne seront pas compris dans les 4,000 officiers autorisés par le Traité ; toutefois, il ne sera permis de conserver que 300 médecins et 200 vétérinaires militaires ;

- 5° Le nombre des fonctionnaires administratifs sera porté à 735 de façon que l'administration de l'armée appartienne entièrement au Ministère de la Reichswehr ;
- 6° 50,000 fusils et 20 millions de cartouches pourront être conservés à titre de réserve pour le cas de pertes dans les luttes civiles ;

- 7° une légère augmentation dans le nombre des mitrailleuses, déterminée par la Commission militaire interalliée de Contrôle, sera autorisée de façon que toutes

les formations possèdent des mitrailleuses pour leur propre défense.

Si, à n'importe quelle date avant le 1^{er} janvier 1921, les Commissions interalliées de Contrôle en Allemagne constatent que les termes du présent arrangement ne sont pas loyalement exécutés,

par exemple :

si, à la date du 1^{er} septembre 1920, les mesures gouvernementales et législatives prévues n'ont pas été prises et n'ont pas reçu la plus large publicité, ou si la destruction et la livraison du matériel ne se poursuivent pas normalement.

ou si, le 1^{er} octobre 1920, l'armée allemande n'a pas été réduite au chiffre de 150,000 hommes comprenant au maximum 10 brigades de Reichswehr,

les Alliés procéderont à l'occupation d'une nouvelle partie du territoire allemand, que ce soit la région de la Ruhr ou toute autre, et ne l'évacueront que le jour où toutes les conditions ci-dessus prévues auront été

intégralement remplies.

Les Représentants allemands déclarent que le Gouvernement allemand a pris connaissance de la décision qui précède et s'engage, en ce qui le concerne, à en observer loyalement les dispositions.
Spa, le 9 juillet 1920.

FEHRENBACH.

DR. SIMONS.

LÉON DELACROIX.

D. LLOYD GEORGE.

A. MILLERAND.

C. SPORZA.

S. CHINDA.

CURZON of KEDLESTON.

HYMANS.

Le Secrétaire général de la Conférence :

ROLIN JACQUEMYNS.

六三三 九月七日

大角在仏國日本大使館附海軍武官ヨリ
栃内海軍次官竹下軍令部次長宛(電報)

九月六日大使會議ニ於テ承認セラレタル海軍

委員決議事項報告ノ件

第一八五番電報

(九月十三日外務省字接受)

昨六日大使會議ニ於テ承認セラレタル海軍委員決議事項ノ重ナルモノ左ノ如シ(委細文書報告)

一、對独条約第百八十九条及第百九十二条解釈ノ件

A 此ノ二箇条ハ何等矛盾スルトコロナシ

B 仏、伊ノ保有スヘキ巡洋艦六隻駆逐艦二十隻ニ属スルモノノ他ハ一切ノ軍用材料ハ解体

艦艇ヨリ移動シタルモノト然ラザルモノトヲ問ハズ監督委員ノ隨時指示スル所ニ從テ第百九十二条規定ニ依リ処理セラルルモノトス

(註) 尚監督委員ノ心得迄ニ第百八十九条規定ニ拠

ル軍用材料以外ノモノハ独国ノ所有ニ歸スベキモノナルコト及「デーゼル」機械ハ純然タル軍用材料ナルヲ以テ第百九十二条ヲ適用スヘキコトヲ決定シタリ

二、 獨国残留海軍軍用材料ノ破壊作業ハ之ヲ陸軍監督委員

ニ委托ノ件

三、 埃、洪、勃、土海軍軍用材料売上金ハ對独同様英七十「パーセント」仏十一「パーセント」伊十一「パーセント」日八「パーセント」ノ比例ニ分配スルコト又右金額ハ賠償委員会ニ提供セザルコト

四、 旧埃洪国艦艇処分ノ件

A 「カッター」所在水雷艇十二隻

仏国海軍ハ休戦以來同港管理中ナル処十月一日ヲ以テ同港ヲ撤退スルニ決シタルヲ以テ工場及水雷艇ノ処分ヲ為サザルヘカラズ然ルニ「アドリアチック」ハ政治的關係複雑ナルモノアルヲ以テ水雷艇ヲ聯合國ノ一港ニ移動スルコト困難ナリ外ハ次回大使會議ニ讓ルコトトナレリ

B 「ポーラ」及「ヴェニス」所在駆逐艦、水雷艇ヲ小

国ニ分配ノ件

C 巡洋艦四隻宛ヲ埃洪兩國ニ交付ノ件

D 河用砲艦ヲ「ユーゴスラヴ」及羅馬ニ分配ノ件

E 「ダニューブ」委員会ニ河用砲艦四隻交付ノ件